

NEWSLETTER SPECIAL EDITION

H30 グローバル女性人材養成プログラム(ベトナム) 特集

2018年8月16日(木)～29日(水)の14日間、協定校であるハノイ貿易大学(ベトナム)にて研修が行われました。  
「ベトナムの発展とアジアにおける協力」をテーマとした内容で、11名の学生が参加しました。  
プログラムの内容と共に、学生の感想を紹介します。

## PROGRAM

プログラムは、ベトナムの文化、歴史、経済を学べる講義を中心に行われます。また、ハロン湾、ニンビン等へのフィールドトリップや、ベトナム料理実習体験などを通して、ベトナムについてより深く知る機会を得ました。参加学生に人気だったプログラムは、「ハロン湾見学」、「水上人形劇見学」など。講義では、「ベトナム経済概観」が良かったと記述している学生が多くみられました。

- 研修前にもベトナムについて少しは学んでいたのですが、現地の教授から学ぶことで、より深くベトナムという国について知ることができました。特に経済学の講義では、最後に自分たちの意見についてまとめ、発表する機会があったので、とてもやりがいがありました。またこの講義は研修の後半にあったので、ベトナムに来て実際に感じたことからより実践的な意見を出すことができたのではと感じています。
- 講義の内容で一番驚いたのは、ベトナムの経済は自分が思っていた以上に成長が著しく、日本との関係も深いのだということでした。現在発展途中のベトナムには現状では改善が望まれることも多くあるようですが、ある程度発展してしまった日本に比べ、若い人も多く活気がある国なので、これからますます発展していくように感じ、注目していきたいと思いました。
- ベトナムのイメージとして持っていたのがハノイのようなバイクの多い都市生活といったものであったので、ハロン湾やニンビンのように世界遺産にもなっている自然の美しさを体で感じることでベトナムの人の文化や価値観の形成のプロセスの一端を学ぶことができたと考えます。写真として見るだけでなく実際に自分の足で歩いて全身で感じることで、より一層深く自分の記憶に刻むこともできたのでフィールドトリップの重要性も再確認することができました。

## SCHEDULE

8/17	オリエンテーション	8/23	ベトナム人学生のための日本文化講義 シティツアー(タンロン遺跡・文廟見学)
8/18-19	ハロン湾の旅	8/24-25	チャンアン、ニンビン見学
8/20	講義「ベトナム概観」 シティツアー(女性歴史博物館・水上人形劇)	8/26	ベトナムの伝統的な料理の体験
8/21	講義「ベトナム経済概観」 企業訪問	8/27	講義「ベトナムの手工芸村」 バッチャン陶器村訪問
8/22	講義「旋律で聴くベトナム」 民俗学博物館見学	8/28	閉会式

## MOTIVE

ベトナムという国の文化や歴史を知り、それを自分の目で見てみたいという目的で参加した学生が多かったようです。また、国際交流や自身の視野を広げたいという学生もいました。

- ベトナムの文化や生活を現地での活動を通して知り、**視野を広げるとともに、現地の学生など自分とは違った環境で育ち、異なった経験をしてきた人々と交流**することで自分自身の意識を高めたいと思ったから。
- まず旅行目的以外で海外に行ったことがなく、**観光客としてではない立場で海外のプログラムに参加したい**と思っていたので参加しました。もともとベトナムには一度行ってみたいと思っており、それは世界遺産などの観光地が多いのが魅力でした。この研修では世界遺産もめぐるといことでその面でもぜひ参加したいと思っていました。
- **発展途上にあるアジアの国々に対する理解を深め**、また実際にそのような国で生活している人々の様子を見てみたいと考えたため。アメリカへホームステイに行った経験からも、国際交流に興味はあったが、大学に入りそのような機会をあまりとれていなかったため。

## INTERACTION WITH STUDENTS IN VIETNAM

**ハノイ貿易大学の学生や他国から貿易大学へ留学している学生と交流することで、たくさんの刺激を受け、自分自身を見つめ直す良い機会になったようです。**

- ハロン湾で一緒に食事を食べたときのことが印象に残っている。他大学の学生は語学留学に来ていたので、私とは語学力が段違いであった。ヨーロッパ圏の留学生と積極的に交流しようという姿勢を見習わなければと思ったが、いざ英語を話そうと思っても、単語が出てこなかった。他大学の人と自分の間に大きな差を感じ、とても恥ずかしかつたので、**帰国したら語学の勉強をしたいと強く思った。**
- 現地の学生の人たちの言語に対するモチベーションの高さにはとても驚いた。また、彼らは丁寧に私たち日本人大学生の話を聞いてくれた。また、日本がアジアの中でも目覚ましい発展をかつて遂げたのだということに対して**非常にリスペクトしてくれているのが伝わってきて、他国の文化や歴史を重んじることができるのは素晴らしいことだと思った。**
- 日本文化講義で何を講義すれば、ベトナムの学生の方々が楽しんでいただけるかと、メンバーたちと一緒に考えたことです。私たちはこの研修の集まりで出会うまで知り合いではありませんでしたが、今回のこの活動を通して親密になれることができたと思います。また、班を3つに分けて講義を行ったのですが、違う班の講義内容は日本人の私も楽しんで、とても印象的でした。

## DISCOVERY IN VIETNAM

2週間のプログラムで、ベトナムの人や文化、歴史についてたくさんの発見をしたようです。ベトナムで発見したことを自分達の生活や常識と比較することで、日本について新たな発見をする機会が得られたのではないのでしょうか。



- 私がこのベトナム研修で発見したことは、ベトナム人の明るさです。研修中、どこへ行っても誰と会ってもベトナムの方はいつも笑顔で私たちに接してくださいました。日本よりも生活水準は低いのに、日本人よりも笑顔でいる人の数が多いように感じました。また、**ベトナム人は日本人以上に年長者を敬う姿勢をもっている**など感じました。教授と話するとき、先輩と話するときなど常に年下のベトナム人が気を遣っている姿をみて、年長者を敬うという文化は日本もベトナムも同じなんだと実感しました。また、ベトナムには「先生の日」という日があり、この日は先生に日頃の感謝の気持ちを先生に伝える日だそうです。とても素敵な日ですし、日本にもあったらいいなと感じました。

- ベトナムにきて一番驚いたことは交通状況です。まずバイクがすごい量で、かつ赤信号でも普通に走っている光景にはとても驚きました。あと**日本よりも軍が身近にあることも驚きました**。町中に実際に銃をもった兵隊がいたり軍人がのっている車が走っていたり、軍関係者専用のホテルがあったり、生活の中に軍というのが溶け込んでいると感じました。



- ベトナムの学生の方々が流ちょうに日本語を話したことです。日本語を勉強する外国の方がたくさんいるということが驚きでした。そして、彼らは英語も話すことができ、日本の学生との差を感じました。高校や中学校における日本の英語の時間はあまり英語が学べる環境ではないと思います。ただひたすら文法を覚え、慣用句を暗記し、英訳と和訳をすることが、日本の英語の授業を生きていない言語を教える時間になっているのではないかと考えました。日本は幸い母国語で大抵の専門科目を学ぶことができます。しかし、そこに甘えるのではなく、英語を使って何かを学ぶという形に授業を変えないと、英語を使うということはなかなか学べないのではないかとベトナムの学生の方々を見て思いました。そもそも勉強に対するモチベーションが日本の学生のほうが低いと思いました。



- ベトナムには日系企業はもちろん、海外の企業が多く進出しており、データを見ると経済発展が著しいことが分かりますが、講義の中で自国の企業が少ないという問題点を学びました。また実際にハノイを歩いていると、道の整備がされていなかったりゴミが多く捨てられていたり首都として改善点が多くみられます。しかし、実際に現地の人々と交流して**ベトナムの方々は非常に親切で勤勉で自国を愛していると感じたので**、数年後にはもっと素晴らしい国になっているだろうと確信しました。

- 同じアジアの国として、稲作や仏教への信仰など共通した文化や自然環境が見られた一方、**衛生に対する意識や働き方など日本人との違いも感じた**。日本の常識で考えると不快に思うことも、それは日本でしか通用しないことで、押し付けることがあってはならない、文化や習慣の違いによって、ものの見方、感じ方はそれぞれであることを学んだ。



- フィールドトリップでは、世界遺産からベトナムの企業まで様々な場所を訪れたが、中でも私が心に残っているのは「ベトナム女性史博物館」である。この博物館は「家庭での女性」、「歴史のなかの女性」、「女性のファッション」という3つのテーマの下、女性に関わる様々な資料を展示していた。その中に、ベトナム戦争で活躍した女性として、何人もの女性の写真と功績について紹介した展示があった。**戦争中、女性も銃を持ち、戦争に参加していたという事実が、日本人の私にとっては衝撃的だった。**



# WHAT THEY GAINED

コミュニケーション能力だけでなく、統率力や予想外の出来事に対応する力などを身につけた学生もいたようです。

- 今回の研修を経て、話し合いを進める力、グループで協力して一つのものを作り上げる力、情報を収集し、まとめる力がついたのではないかと思います。これらの力は、日本文化の授業を準備する過程で自然とついたものだと思う。テスト期間に授業を作るのは少し大変だったが、日本で準備しておいたおかげで、授業当日は自信を持って教壇に立つことが出来た。日本人の学生がベトナム人の学生に授業をするというプログラムは今年から始まったものらしいが、ぜひ来年以降も続けていただきたい。
- 研修の中では、国内では起こりえないような様々なハプニングや予想外の出来事が起きました。その一つに、ハロン湾でのフィールドワーク時に連絡が上手く伝わらず、十分な荷物を持っていくことができなかったことが挙げられます。その時はメンバーと協力し合って行動し、なんとか乗り越えることができました。このような経験などを通して、**臨機応変に物事に対応する能力が身についた**と感じています。
- まずは、研修内で同じプログラムに参加する学年や経歴が異なった人たちと過ごし、また現地で出会った多国籍の人と話すことでコミュニケーション能力は向上したと思う。また、活動はほとんど団体行動だったので集団活動での自分の役割を果たそうという能力も向上したと思う。さらに、2週間にも及ぶベトナムでの生活を通じて**日本での当たり前は世界の当たり前ではない**ことが良く分かったので、物事に対して気にしすぎない精神も養うことができたと思う。

## COMMENT

学生達が今回の研修を通して感じたこと、学んだことを紹介します。



- ベトナム研修が始まった直後は、初めての街を見ても触れるものすべてが新鮮だったが帰るころにはベトナムという国、またハノイという街に対して愛着がわき日本に帰るのがさみしくなった。ベトナムは日本に比べまだ経済的に発展途上にあることもあり、日本より温かみのある国だった。日本が急速な経済発展を遂げ、様々な技術が向上していくにつれてそれと引き換えに失った人と人の密接なつながりがベトナム国内には多く存在していたように感じた。しかしベトナム人の大学生たちの学びに対する姿勢は非常にアグレッシブであり**日本の大学生とは大きく異なっていた**。彼らがベトナムの未来を創りさらに発展させていく姿が容易に想像できた。日本人大学生も負けてはられないと勉強に対するモチベーションが上がった。参加して本当に良かった。

- ベトナムに実際2週間滞在することは本当にいい経験になりました。食文化、生活、宗教、国防意識、働き方、過ごし方など、様々なものを実際に目で見て、肌で感じ、知ることができました。知ったことを通して日本と比較することで見えていなかった側面というもの知ることができました。**久々に自分が成長していると感じることができました**。実際に現地の人相手に値段交渉してみたり、現地の料理を作ってみたり日本ではけっしてできない体験ばかりでした。積極的に向こうの学生さんとコミュニケーションを図ることは最初はできなかったですが研修をとおしてコミュニケーションは徐々にとることができていきました。女性民族博物館ではベトナム戦争において女性も男性と共に前線で戦いあるときはそのグループを率いていたと知った時男女平等というのはこのようなことをいうのかなと感じました。また女性の権利を求めるとき男性と共に戦う時は戦う覚悟を持つ必要があるのだろうと考えさせられました。この研修をとおして大きく自分自身と向き合い成長できたと思います。本当に良い経験ばかりで、満足しかありません。



- とても楽しく素晴らしいプログラムでした。今回の体験を通して、前から好きだったベトナムがもっと好きになりました。安全面や体調面などいろいろなことに気を配ってくださった先生と現地の学生の方々に特に感謝します。ありがとうございました。

- 日本文化紹介の授業で浴衣を持参したのですが、現地の学生に着せてあげるととても喜んでいただけました。荷物は少し多くなりますが、来年からの参考になればと思います。

奈良女子大学 国際交流センター

NEWSLETTER 特別号 2019年1月発行

〒630-8506 奈良市北魚屋東町

TEL: 0742-20-3736

Email: [iec@cc.nara-wu.ac.jp](mailto:iec@cc.nara-wu.ac.jp)

<http://www.nara-wu.ac.jp/iec/center/ja/index.html>